



◇第2720地区 八代ロータリークラブ ◇例会日 毎週水曜日 ◇会場 セレクトロイール八代
 会長 中山 英 朗 会報編集者 緒 方 大 輔 年度 No.20
 幹 事 古 田 浩 二 令和 2 年12月 2 日発行

第3045回週報 例会

会長の時間

中山(英)会長

先週の例会後、11月20、21日で八代から6名のコロナ感染者がしました。残念ながら当会規定により今週の例会は、週報による例会となります。また、今週予定されていたI.D.Mも報告の通り中止します。例会のプログラムで準備いただいた新会員の皆さんには大変ご迷惑をおかけします。

八代商工会議所が旗振り役になり、熊本県、八代市、八代保健所を中心に『安心なまちやつしろプロジェクト』を展開し、各種団体の協力もあり、感染者は出ても単発で終わっていましたが、先週は鏡支所の市職員をはじめ前記の人数の感染者が発生しました。全世界的に毎日のように感染者発生数がいままでの記録を上回り、アメリカにおいては15万人が1日に感染し、日本においても連日2,000名を越す事態の現況においては、八代も例外でなく、例会開催中止は仕方ない判断かなと思う反面、皆さんが楽しみにされている例会が行えないことが残念です。有効なワクチンが開発出来たと発表されておりますし、新薬開発の情報も聞こえてきます。どうかこの新型コロナウイルス感染症が、1日も早くインフルエンザと変わらない対応が出来る日が来ることを心より祈念します。

さて、先週スマイルされましたが、鋤馬把バスト会長が、法務大臣表彰を受けられました。保護司として20年間活躍されたことを評価され

12月9日のプログラム		12月16日のプログラム	
八代青年会議所			
豊田理事長			
本日のスマイル	円	累計	422,000円

ての受賞だそうです。別の会合で色々な話をする機会がありましたが、お茶目な学生時代の経歴を評価され保護司にスカウトされたのがスタートだそうです。定年までの10年間、なお一層のご活躍をお願いします。

また、先週から始まりました日本シリーズですが、1、2戦を見る限り私の予想が当たりそうです。ホークスの先発した千賀、石川両投手の力強い投球と柳田選手を筆頭に各バッターの思い切りの良さ、走塁の素晴らしさが印象に残りました。舞台を福岡に移した昨日の第3戦もあわや継投でのノーヒットノーランでホークス3連勝。今日の第4戦でシリーズが終わらないようジャイアンツの健闘に期待します。

本日は例会の開催が出来ませんでした。月が変わる来週の例会が出来ますことを祈念して今週の報告といたします。

幹事報告

古田幹事

◎例会変更・取り止めのお知らせ

- ・八代東RC 12月3日・17日(木)はWEBにて例会変更。12月10日・14日・31日(木)は定款に基づき取り止め。

◆ 出席報告 ◆

会員総数	出席免除 会員数	計算上会員数	ホームクラブ 出席数	当日分メーク アップ済会員	合計
名	名	名	名	名	名
	補填会員数	合計		他出席会員 (メークアップ)	本日出席率
名	名	名	%	名	%

2720地区 ガバナー月信 vol. 5 より抜粋

ロータリーソングから見た日本のロータリーの歴史

多くのクラブの公式訪問が終わりました。夫々のクラブの歴史、特長に触れさせて頂き、大変貴重な体験となりました。心から感謝申し上げます。ただ、豪雨災害、コロナ禍によりまして、会長幹事懇談会を先行し、ガバナーアドレスをDVD にしたクラブがありました。ここに来まして、個別の訪問が可能なクラブが増えてきて、再度、公式訪問を復活いたしました。

さて、ロータリーソング・・・「奉仕の理想」「我らの生業」「手に手つないで」「それでこそロータリー」普段、例会や懇親会で歌っています。これは、いつどうしてできたかご存知でしょうか。そこには、ロータリークラブの置かれた立場、環境、変化に伴い出来た経緯があり、長年歌われ続けてきました。その経緯を交えお話いたします。

世界では、1905年にロータリークラブがシカゴで誕生しましたが、決して順調な航海では無く、最初、親睦と相互扶助が主たる目的で、奉仕の理念誕生までは、5年ほどかかり、その間は非常に激しい「闘争の場」だったようです。そうしたギスギスした例会の雰囲気や和ませるために、5番目の入会者、ハリー・ラグラスが呼びかけて、当時の流行歌をみんなで歌ったのが「ロータリーソング」の始まりとされています。

日本に東京ロータリークラブが誕生した頃、RIとしては、50クラブ毎に1地区を与えていましたので、当時の日本は無地区であり、ガバナーもなく、クラブ拡大に不便な状態だったので、RIは米山梅吉氏をスペシャル・コミッショナーに任命し、拡大に当たらせました。1924年には大阪クラブをスポンサーとして神戸クラブが、東京クラブをスポンサーとして名古屋クラブが設立され、1925年には京都、1927年には横浜と順次クラブが増えて行きました。米山氏に次いで、横浜RCの井坂孝氏がスペシャル・コミッショナーに任命されました。井坂孝氏は、RIに対し、日本に地区を設定し、地区大会が出来るように依頼しますが、まだクラブ数が少なくRIは拒否します。ただ、地区大会という名称は無理だが、地区大会に準ずるインターシティ・ミーティングを許可します。その準地区大会は1926年（大正15年）に大阪で第1回、1927年（昭和

2年）に東京で開かれました。準地区大会という事は、準決議機関でもありますので、「日本に地区を与える事」と2回続いて決議します。しかし、RIは、わずか6クラブしかないのに地区と認めれば、管理するRIは財政的にひっ迫しますので、当然拒否します。これに対し、井坂孝氏は猛烈に反発します。RIもこれで、日本のロータリーが解散でもすれば、大変だと、やむを得ず、第70地区を割りふって来るのです。これが、戦前の日本のロータリークラブがRIに対して行った最大の非礼でした。

地区創設によって、1928年（昭和3年）にガバナーが誕生しました。米山梅吉氏が初代ガバナーになりました。第1回地区大会はもともと第3回の準地区大会を予定していた京都クラブがホストの名古屋でした。2代目ガバナーは横浜クラブの井坂孝氏。3代目は大阪クラブの村田省蔵氏でした。村田氏は1933年（昭和8年）に全国、5万人以上の中小都市でロータリークラブを拡大するように号令を出します。その結果、ロータリークラブは一気に増えて行きました。しかしながら、このころには軍閥の圧力が相当強くなっていました。

1935年（昭和10年）村田ガバナーはそれまで、例会で歌っていた外国のロータリーソングに対して、日本人が作った歌を歌うべきだと公募したのです。やっと冒頭のロータリーソングの話になりました。そこで生まれたのが、京都の前田和一郎氏作詞、東京の萩原英一郎氏作曲の「奉仕の理想」です。ただ、村田ガバナーは前田氏を訪ね、一つ歌詞に注文をつけます。それは、元の歌詞を「御国に捧げん」と書き改めるというものでした。これはだんだん迫って来る軍閥への対策だったようです。もともとロータリーで自己研鑽し、社会に対して奉仕して行くもので、特定の国への忠誠を強制するものではありません。やむ得ず受け入れた前田氏でしたが、戦後は、その事を悔い、ロータリーが復帰してからも二度と参加する事はありませんでした。元の詞は「世界に捧げん」だったのです。もう一つの曲として選ばれたのが「我らの生業」でした。